
砂漠門

蟻塚つかっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

砂漠門

【コード】

N0098BA

【作者名】

蟻塚つかっちゃん

【あらすじ】

砂漠になった世界で少年が感じるものの記録。

さかさまのお姫様はただの傍流。
唯物的な危険分子はただの亜流。

どこに本物はいるのでろうか。精粗の乱れた雛型では地響きすら起
こらない。それじゃ人々の感動は生まれやしない。オリジナル パ
ロディの繰り返し。下卑た笑いしか創造しない。神はこんな世界が
おもしろいか？人はつまらぬマネキンでしかない。半透明の幽霊で
しかない。

手元不如意の皇帝さまは緞帳の向こうに引きこもる。彼の皮膚には
チアノーゼができている。赤く腫れている。きっとエイズに違いな
い。どうせアヘンの吸いすぎだ。

ここは、砂上の楼閣。鄙びた傾城。仔細なく、おおざっぱに、砂塵
が吹くだけ。生き延びた人々の限られた生存地。蒼い雨だけがぼつ
りぼつりと音を立て、また、城壁が崩れた。

あれほど誇ったメトロポリスはいまじゃ滅びの砂漠の世界。穢れも
清らも存在しない。眩暈とアスファルトの奔流している虚無的な正
しい礼儀のみ。弔鐘の鳴らない悼みだけが人造人間に蔓延している。
神父の崇拜なんて嘘八百。聖者の乱交さ。

有刺鉄線の深い地獄。唾液塗れのきたない乖離。あれだけ蔓延った
罪と罰は刃毀れしちやって今じゃボロボロ。複雑な冗談なんて難解
過ぎて遺棄される。一刀両断、空中分解、乱文乱筆、一方的な脱水
症状。

嗚呼！そういえばここは僕の深層心理だ。音叉もハルシオンも効果
はない。新製品を求める世間の犬どもと同じ精神構造だ。深い悲哀
の氾濫は僕の誇大自我を傷つける。

「金の斧と鉄の斧の仕事の価値なんてない」と神様に上手なコメン
トをもらっても、それはある種の偏見だろう。完全なる神域なんて
結局は誹謗中傷の都じゃないのか！

粗悪品だけ食し、着色料だらけの飲料を口に含み、自分の餌をまき散らす飽食の時代にふさわしい墮落政治。生まれやしなかつた「パックスジャパニーズ」は湾曲した地平線に溺れた。

残存している教会に授けられた僕の洗礼名は「蟻虫検査1世」だ。これじゃ天国に昇れやしない。地上に永遠這いつくばるだけのしがない人生。……コンクリートに溶かされる人間の魂。電信柱に捧げたらブソングは次第に褪色していった。闇に支配される砂漠の夜は箱の夢を奏でる。いばらの王冠は腕に食い込む。プログレッシブな理不尽の群像劇。円周率をただ覚えりゃいいわけじゃない。

僕たちの誰も何も残らない。進化しすぎた科学技術の少女強姦だけが役に立たない石炭の欠片の如く鈍く光っている。虹色の価値のある夢や希望は百鬼夜行のカゲロウにすべて喰われた。だからといって僕たち人間なんて貧乏くじを引いたのではない。運命だったのだ。必然だったのだ。重低音を拾い、羊頭狗肉のヒエラルキーが堆く聳つぎたかえた社会でしかなかった。累々たる屍はミサイルの藻屑に消えた。鯉呼吸もできないくせに海底に逃げた生物は次の化石燃料に姿を変える。憂い。鈍磨。白骨。臨終。

地球は滅び、人間性も失われた。凍った博愛主義。事務的な天体運動。地球の果ては奈落より絶望的だ。僕は青い球体の座敷牢の中。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0098ba/>

砂漠門

2011年12月31日04時47分発行